



青森県立青森西高等学校
Aomori Prefectural Aomori Nishi Senior High School



青森大学
AOMORI UNIVERSITY

青森大学・青森西高等学校
高大連携事業
協力：JR 東日本新青森駅

青森大学社会連携センター

写真家・小島一郎 津軽・下北モノクロの軌跡

青森県立美術館

1950 年代の津軽や下北を鮮烈なモノクロ写真で写しだした写真家・小島一郎 (1924-1964) の生誕 100 年・没後 60 年を記念する回顧展「小島一郎 リターンズ」が 9 月 29 日 (日) まで、青森県立美術館のコレクション展として開かれています。今は失われた景観や暮らしを通じて、それでも変わらない人々の営みや心が伝わってきます。

小島は青森市に生まれ、30 歳のころから家業の写真材料店を手伝う傍ら、青森県内を精力的に撮影しました。写真雑誌への投稿などを通じて作品が広く知られるようになり、1961 年にプロのカメラマンを目指して東京へ。しかし、その後の活動で体調を崩し、1964 年に故郷の青森市で急逝しました。

今回の回顧展は、2009 年に同美術館が開いた「小島一郎 北を撮る」に続く 2 回目の大規模個展で、700 点を超える収蔵作品・資料から約 200 点を展示しています。青森県内の 5 つの美術館・アートセンターが連携して 9 月 1 日 (土) まで開催している「AOMORI GOKAN アートフェス 2024」の一環です。

東京で撮影された 5 点に始まり、次のコーナー「津軽」では、逆光の中にも複雑な陰影を描き出した写真の数々

を、あえて撮影時期・場所を説明せずに並べ、写真の構図やテーマを浮き立たせています。さらに「下北」のコーナーでは一転、光と影の対照がはっきりした作品群を、小島の説明文を添えて展示し、撮影活動の背景や心情に迫っています。

合間には、写真の組み合わせや焼き付け技術を検討するために作られた小サイズの写真群「小島のトランプ」も置かれ、撮影行の様子や試行錯誤の痕跡が見て取れます。

さらに、八甲田山中に 7 年だけ存在した開拓集落「ヌラ平」の生活を収めた貴重な写真をスライド投影するとともに、小島と接点があった民俗学者・宮本常一が同時期、下北で撮影した写真群も紹介しています。

企画を担当した高橋しげみ学芸員は「小島が撮影した、

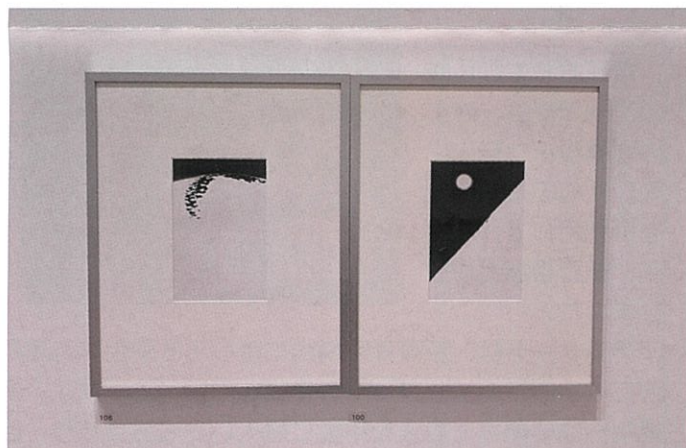
失われた光景や暮らしは、いつか私たちが帰っていく世界なのかもしれない。地方の未来はどうなるのか…と自問しながら、作品群と向き合いました」と話しています。

【青森大学社会学部 3 年・木立明利】

小島氏の作品はどれもモノクロで表現されているが、当時の情景や心情が伝わってくると感じた。

白と黒のハイコントラストの作品は、写真という粹を超えたアートを見ているような感覚を体験できる。

観覧料は一般 900 円、高校生・大学生 700 円、小中学生 100 円。7 月 27 日・8 月 10 日・9 月 21 日 (いずれも土) はナイトミュージアムで午後 7 時半まで入場可、8 時まで鑑賞可。7 月 22 日 (月)・8 月 13 日 (火)・26 日 (月)・9 月 9 日 (月)・24 日 (月) は休館。

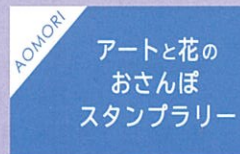


夏のデジタルスタンプラリーいかが？



東北 6 県「エキタグ」

アートと花のおさんぽ



JR 東日本東北本部は 8 月 31 日まで、東北 6 県の夏祭りや花火大会の開催に合わせて「夏だ！祭りだ！！東北だ!!! エキタグ x デジタル駅スタンプラリー」を開催しています。スタンプラリーの達成条件を満たした方にデジタル駅スタンプラリー特製オリジナルカードや記念スタンプをお渡しするほか、抽選でオリジナル NFT をプレゼントします。

対象となる駅は東北 6 県の 24 駅で、青森県内は青森、弘前、八戸、五所川原の 4 駅です。参加方法は簡単 2 ステップ。①「エキタグ」アプリをダウンロード。②スタンプ設置駅で「エキタグ」アプリを起動。「エキタグ」

サインマークにスマホをかざせばアプリ内のスタンプ帳に「オリジナル駅スタンプ」をゲット。



(新青森駅にもサインマークがありますが、スタンプラリーの対象外なのでご注意ください)

スタンプラリーには 4 つの特典 (「エキタグ賞」、「東北 2 県達成賞」、「東北 6 県達成賞」、「全駅達成賞」) が用意されています。

詳しくは「エキタグ」の公式ホームページ (<https://www.ekitag.jp/>、二次元コード参照) をご覧下さい。

※エキタグは (株) ジェイアール東日本企画が提供する駅スタンプアプリの名称で、「エキタグ」は同社の登録商標です。

「AOMORI GOKAN アートフェス 2024『つらなりのはらっぱ』」と連動したデジタルスタンプラリー「ア

トと花のおさんぽスタンプラリー」が 9 月 1 日 (日) まで開かれています。

アートと季節の「お花スポット」、さらに観光・グルメなど約 90 カ所を巡りながら、デジタルスタンプを集めていく企画です。スマートフォンのブラウザから公式ホームページを開き、マップ上の対象施設・スポットを確認してスタンプラリーバナーをタップ。参加用マップが開くので、GPS を読み込み、スタンプを獲得します。集めたスタンプ数に応じて、抽選で 90 人に県内アーティスト特別制作の民芸品、青森アートゆかりのアーティストグッズ、3 美術館のペア招待券などが贈られます。

詳しくはイベントの公式ホームページ (<https://aomori-tourism.com/art-stamp-rally2024>、二次元コード) をご覧下さい。



津軽海峡越えた交流紹介

三内丸山遺跡 「海がむすぶ縄文」展

三内丸山遺跡センターの開設5周年記念特別展の第2部「海がむすぶ縄文ー津軽海峡と三内丸山ー」が9月23日（月・祝）まで、同センターで開かれています（写真右）。古くから密接なつながりがあった青森県と北海道について、その背景や意味を探ります。

海は人や地域を隔てる存在として意識されがちです。しかし、縄文時代の早い時期から、北海道と青森県に住む人々は、津軽海峡を活発に往来していました。



三内丸山遺跡からは、北海道のオホーツク海に近い白滝（遠軽町）で産出したとみられる黒曜石の石槍（写真左）をはじめ、津軽海峡を経由して渡ってきた多くの遺物が出土しています。また、

北海道側でも、青森県側ととてもよく似た文様の土器や、構造が似た住居跡が見つっています。

両地域は1万年にわたり、海を越えて文化的なつながりがありました。

今回の展示は、第1部「恵みの海と縄文ー陸奥湾と三内丸山ー」に続く企画です。「津軽海峡」、「海峡を越えたもの」、「海をはさんだひとつの地域」と3つのコーナーを設け、北海道八雲町の野田生1遺跡で出土した漆塗土器（北海道指定有形文化財）、北海道北斗市の添山遺跡で出土した土偶をはじめ、丸木舟の形の木製品と土製品、交易や文化的交流を示すさまざまな出土品を紹介します。

観覧時間は9:00から18:00まで（入館は閉館30分前まで）、観覧料は一般900円、高校生・大学生450円、中学生以下は無料です。8月26日（月）は休館。

7月28日（日）には岡田康博・三内丸山遺跡センター所長による講演「北海道と本州の交流」が、8月24日



には北海道環境生活部文化局文化振興課・阿部千春氏による講演「津軽海峡を越えた縄文時代の交流ー函館市南茅部地域の縄文遺跡からー」が開かれます。いずれも10:00～11:30・定員30名（事前申込制・先着順）です。

青森西高校「青西おもてなし隊」がゆく⑤

文化祭で「青森のオススメ！」アンケート

青森県立青森西高等学校の文化祭が7月12、13の両日、開かれました。「青西おもてなし隊」は、「青森のオススメ！」と題したアンケートを実施し、観光スポットや飲食店、お土産に関する情報を生徒や来場者から集めました。



今年の文化祭は「100万ドルの記憶（メモリー）」がテーマとなりました。天候にも恵まれ、美術部や写真部、華道部の作品展示、書道部のパフォーマンスをはじめ、数々の模擬店やお化け屋敷などの企画展示を、生徒も来場者も楽しんでいました。

青西おもてなし隊のブースには、昨年の青森ねぶた祭に出陣したねぶたの和紙を再利用して作った花、投票箱などが並びました。

アンケートは、新青森駅構内に張り出す予定で、最終的には手作りガイドブックの作成を目指しています。生徒たちはその場で答えを用紙に記入してもらったり、回答用のQRコードを読み込んでもらったりしてデータを集めていました。

1年の和田明璃さんは「一生懸命に声を掛けたら、多くの人に答えてもらえて、とてもうれしい」と顔をほころばせていました。



見学時間 9:00～17:00（入場は閉館の30分前まで）
（GWと6月1日～9月30日は18:00）
休館日 毎月第4月曜日（祝日の場合は翌日）、12月30日～1月1日
観覧料 一般410円（330円）／高校・大学生等200円（160円）／
中学生以下 無料
※（ ）内は20名以上の団体料金
※特別展は別料金。展示内容により変更する場合があります。
※個人観覧者は、青森県立美術館のチケット表示で割引特典あり。
（詳しくは各施設のチケットカウンターまでお問合せください。）

お問合せ 〒038-0031 青森市三内丸山305
TEL.017-766-8282 / FAX.017-766-2365
URL <https://sannaimaruyama.pref.aomori.jp>

三内丸山遺跡センター

縄文 ⇄ 芸術

三内丸山遺跡センター 青森県立美術館



青森県立美術館

開館時間 9:30～17:00（入場は16:30まで）
休館日 毎月第2、第4月曜日（祝日の場合はその翌日）
※企画展開催時、展示替等により変更する場合があります。
観覧料 一般900円（700円）／高校・大学生500円（400円）／
小学生・中学生100円（80円）
※（ ）内は20名以上の団体料金およびAOMORI GOKAN アートフェス2024
公式ガイドブック特典「スタンプラリー＆バスポート」提示割引料金
※心身に障がいのある方と付添者1名は無料
※企画展は別料金。
※個人観覧者は、三内丸山遺跡センターのチケット表示で特典あり。
（詳しくは各施設のチケットカウンターまでお問合せください。）

お問合せ 〒038-0021 青森市安田字近野185
TEL.017-783-3000 / FAX.017-783-5244
URL <https://www.aomori-museum.jp>

新青森駅 ⇒ 三内丸山遺跡センター：循環バス「ねぶたん号」（東口）18分・300円、タクシー（南口）約10分・1,000円前後、徒歩約30分
⇒ 青森県立美術館：「ねぶたん号」（東口）約11分・300円、タクシー（南口）約10分・1,300円前後、徒歩約40分

Facebook ページ Instagram アカウント

<ネット情報>

Facebook ページとInstagram アカウントを開設し、独自の記事・情報を掲載しています。ご意見をお寄せ

下さい。また、PDF 版を青森大学社会連携センターの Facebook ページに掲載しています。いずれも、右側の QR コードからご覧いただけます。

☆このニュースレターは、青森大学社会学部・櫛引研究室が企画・制作し、文責を負っています。お問い合わせ、ご意見等は下記連絡先へお願いします。

〒030-0943 青森市幸畑 2-3-1 青森大学社会学部 櫛引素夫 電話 017-738-2001 内線 731
shin-aomori@aomori-u.ac.jp

